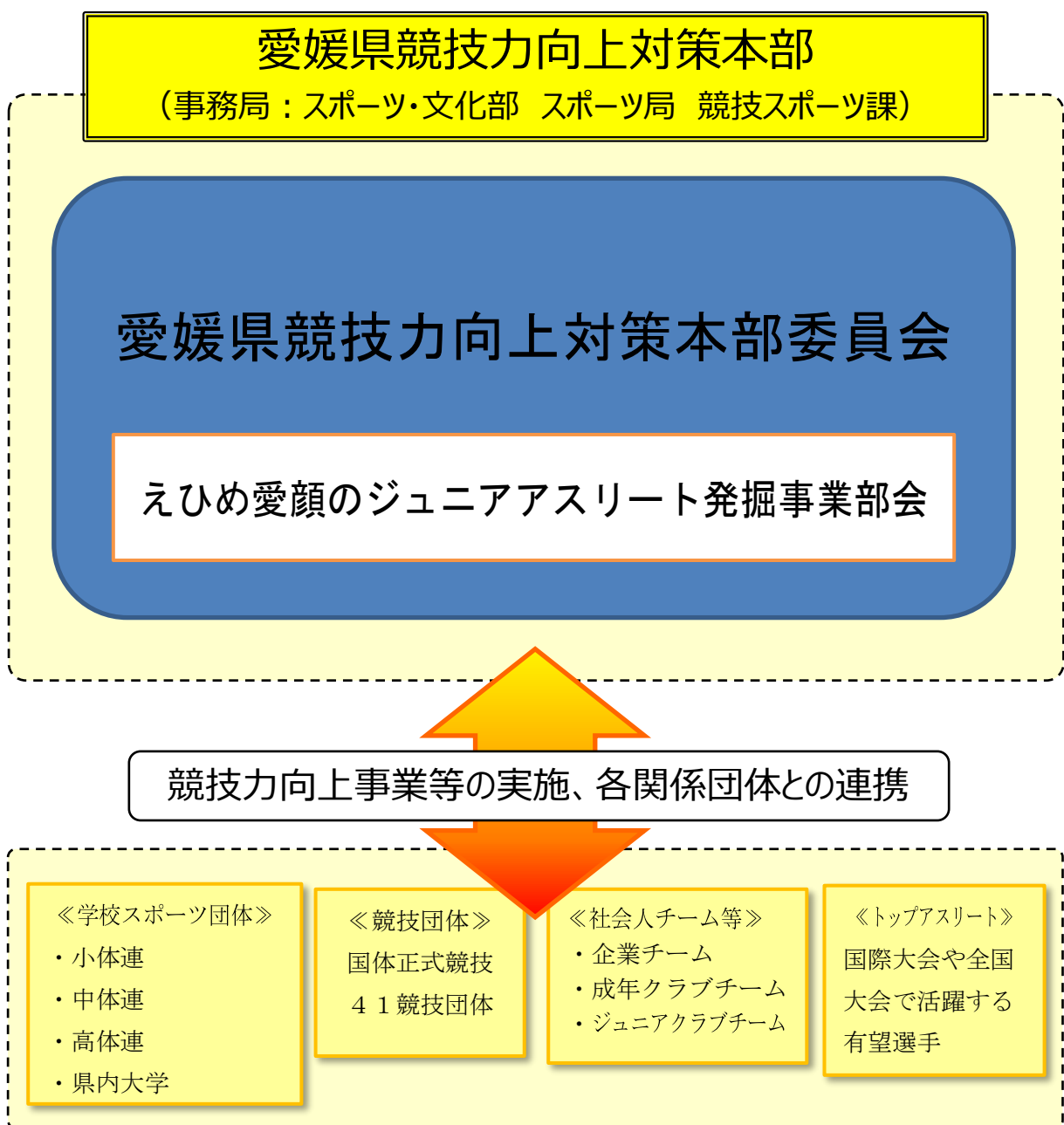


第4章 基本計画の推進体制

1 推進体制の枠組み

愛媛県競技力向上対策本部は、この基本計画に基づき、本県の競技力向上対策を計画的かつ着実に推進するため、県、県教育委員会、市町教育委員会、県スポーツ協会、競技団体、学校スポーツ団体、大学、民間企業、地域クラブチームなどと緊密に連携・協力を図り、一体となって競技力向上対策に取り組むこととします。



2 競技団体の計画期間（2019～2023年度）の取組み《目標》

No. 1 一般財団法人 愛媛陸上競技協会の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

えひめ国体に向けて陸協全体で取り組んできたジュニア強化練習会、全国トップレベルチームへの遠征合宿、競技専属アドバイザーコーチなどの優秀指導者を招へいた強化合宿、また、県選抜選手での対外遠征など、昨年度までの効果的な事業をより発展させて継続する。また、小中学生へ陸上競技の魅力を発信できる事業も新たに開拓する。

【成年選手】

長距離種目は、地元の松山大学や愛媛銀行との連携を強化する。他の種目においては、えひめ国体に向けて強化してきたジュニア世代が、関東・関西などの全国強豪大学へ進学している。今後も国体強化合宿や四国選手権大会などを通して、「チーム愛媛」の意識をより高められる工夫をして強化を図る。

◇指導者の養成・確保

各強化事業などにおける指導の多くは、高校を中心とした学校の教員に頼っているのが現状である。今後は、小学・中学・地域のクラブチームの指導者との協力関係を円滑なものにする。また、日本スポーツ協会公認の陸上競技コーチやジュニアコーチの資格保有者は多くないので、金銭的補助も含めて資格保有者の確保及び資質向上を図る。

No. 2 愛媛県水泳連盟の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

【競泳】合宿や遠征などを通して練習環境（施設・専門家による指導）の充実を図る。
【水球】県下各地で選手の発掘・普及活動を行い、練習環境の確保にも努める。
【AS】選手を発掘・育成し、より専門的な指導を受けるため、県外遠征を中心に強化を図る。
【OWS】「EHIME OWS(2018～)」を継続的に実施し、競技の普及・選手の発掘に取り組む。

【成年選手】

【競泳】50mプールでの合宿、強豪チームとの練習等を定期的、効果的に取り入れ、練習環境の充実を図る。
【水球・AS】大学進学後も活動する選手のサポートを行う。
【OWS】レース経験を積みませながら、日本選手権へ一人でも多く出場できるように努める。

◇指導者の養成・確保

【競泳】合宿等へ参加する選手の帯同を積極的に依頼し、実践的な指導を学ぶ場を設ける。
【水球】今後、競技を続ける者から指導者として活躍できる人材育成に努める。
【AS】審判員資格、上級指導員資格を取得させ、指導力アップを図る。
【OWS】毎年県内で実施される日本代表合宿で最先端の指導を学ぶ機会を設ける。

No. 3 一般財団法人 愛媛県サッカー協会の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

各年代のトレセン活動を充実させ、選手の発掘・育成・強化につなげる。2020年からトレセン認定制度もスタートするため、各地区のトレセン組織を整備する。愛媛県で育った選手たちが、郷土意識を高め、育成者への感謝の意識付けを目指す。また、キッズ（グラスルーツ）の普及の拡大が発掘・育成につなげる。

【成年選手】

地元大学生、社会人チームから選抜されたラージグループの候補選手たちに、定期的なトレーニングを行い強化する。また、地元大学へ入学する有力選手の情報や、他県の大学・専門学校等に所属する有力選手の就職情報をリサーチし、長期的な育成・強化を図る。

◇指導者の養成・確保

各年代の指導スペシャリストを育成することを目指す。具体的には A 級ジェネラル、A 級 U-15、A 級 U-12 ライセンスの取得者を計画的に増やすとともに、U-16 年代まで育成・強化の全体像を持った指導者を多く育成する。そのためには指導者の指導者（インストラクター）養成にも力を入れる。

No. 4 愛媛県テニス協会の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

協会が運営している愛媛トレセンを中心に低年齢でテニスに触れる機会を増やし競技人口の拡大を図ります。トレセンは日本テニス協会と連携し定期的に強化練習会を開催しています。普段トレセンに参加できない地方の選手へのアプローチを含め、運動能力の高い選手を正確な知識と指導法に触れる機会を増やし競技力向上を図ります。

【成年選手】

伊予銀行を中心とした現在の強化体制を維持できれば国体での好成績が見込まれ、目標は常に「優勝」です。国体で勝つためには、世界あるいは全日本ランキングにより決定されるシード権を確保することが必須です。したがって、国際大会や全日本クラスの大会へ積極的に参加し、ランキングを上げることに尽力します。

◇指導者の養成・確保

協会としてコーチや学校の先生へ学ぶ機会の提供の必要性を感じています。情熱のある指導者は多数いるが、学ぶ機会がとて少なく、現場では指導者がどのような視点で選手を見るか迷っている場面も多いため、普段子供達に携わっているナショナルコーチによる指導者へのセミナーを積極的に開催し、指導者育成の仕組作りに注力します。

No. 5 愛媛県ボート協会の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

えひめ愛顔のジュニアアスリート発掘事業とも連携を図り、ジュニアクラブ・高校ボート人口拡大に向け体験教室等普及活動を実施する。また、高体連と連携を図り、インターハイでの入賞・国体での競技別総合優勝を目指し、全国レベルの競技力を身に付けるべく県内合同強化普及合宿や遠征を実施し、選手人口の拡大及び競技力の底上げを目指す。

【成年選手】

高校卒業後も競技を続ける選手人口の拡大及び選手の発掘を行い、県内社会人選手を中心とした強化普及合宿を定期的に行うとともに、合同で県外レースに参加しながらレベルアップを図る。愛媛県出身選手についても競技力向上のため引き続きバックアップを図り、所属団体と協議しながら、国体出場に向けふるさと選手としての出場確保に努める。

◇指導者の養成・確保

協会主催体験教室や強化普及事業への関わりの中から、ボート競技を指導できる人材を確保する。国体での選抜チームでの出場を通して、国体監督・コーチとしての指導者の養成や確保を図る取組みを行う。また、公認審判員免許の取得講習会の開催、指導者資質向上対策会議への積極的参加、公認指導者免許の取得を促す。

No. 6 愛媛県ホッケー協会の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

ジュニア世代の競技人口の拡大、試合感覚を身に付けさせるため、伊予市にジュニアチームを立ち上げ、松前ホッケークラブと定期的に交流試合の機会を設ける。今後、全国大会ベスト4、世代別日本代表選手の選出を目標に、将来を見据えた指導体制を構築する。

【成年選手】

えひめ国体に向けた強化で培った技術や経験を、ジュニア・少年選手に伝える環境をつくる。大学に進学したふるさと選手との連携を強化し、男女ともにライバル香川に勝利して、本国体での入賞を目指す。

◇指導者の養成・確保

成年選手が積極的にジュニアの指導にかかわり、指導の機会を増やすとともに、日本スポーツ協会公認コーチ資格の受講をサポートして、実質的な指導者の数を増やす。

No.7 愛媛県ボクシング連盟の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

県内での学校や年代を問わない合同練習、長期休暇間の合宿を通して選手間のつながりを深め、県全体での強化を進める。県外遠征では、トップレベルの選手との交流し、高い目標を持たせたい。ジュニアアスリート発掘事業や地域スポーツ事業と連携し、競技の普及、選手の発掘、強化促進を図り、愛媛から日本代表選手を輩出することを目標としたい。

【成年選手】

成年選手確保のために、少年選手の大学進学と社会人選手の練習環境の整備・充実を重点的に進める。各大学との連携をとり、遠征等で競技力の確認や情報の収集を行い、継続して少年選手が進学できるような流れをつくりたい。社会人選手については県内の合同練習や各高校の練習に参加できるような機会を増加し、競技力の向上を図る。

◇指導者の養成・確保

各学校への教員の配置やスポーツ専門員制度の活用により、若手指導者の確保はできている。指導者の資質能力向上のために、トップレベルコーチの招へいで最先端かつ高いレベルでの指導法を学んだり、研修会に積極的に参加したりしていきたい。また、引退後の成年選手に愛媛県で指導者として活動してもらうことで、更なる強化・普及に繋げたい。

No.8 愛媛県バレーボール協会の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

えひめ国体で確立した協会と小学連・中体連・高体連・県ビーチバレー連盟が連携した強化体制の更なる発展に努め、「競技人口の拡大」「各カテゴリーでの育成・強化」に向けて、具体的には、全国都道府県中学対抗の県代表強化から国体少年種別強化への円滑な接続を図り、将来的にはナショナルにつながるトップレベルの選手の輩出を目指します。

【成年選手】

本県で育成・強化した選手の強豪大学への進学とともに、大学生選手の県内への就職を積極的に進め、えひめ国体で強化した社会人クラブチーム等の競技力維持・向上に努め、国体での入賞を目指します。また、本県出身選手のV1リーグやビーチバレー国内外ツアーでの活躍やナショナルチーム入りを目指して、オール愛媛でサポートします。

◇指導者の養成・確保

えひめ国体で監督・コーチ等を務め、貴重な経験を積んだ指導者が得たノウハウを次世代の指導者に継承していけるよう、「県協会主催の各種指導者講習会の更なる充実」「アドバイザーコーチなど国内トップコーチとの一層の連携強化」「えひめ国体で活躍した選手が指導者として活躍できる環境づくり」等に努め、『強い愛媛』の基礎をつくりまします。

No.9 愛媛県体操協会の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

体操競技では、各ジュニアクラブ、学校との連携を深めながら、小学生から高校生までの一貫した指導体制の構築を目指したい。新体操競技では、日本体操協会 U-12 選手育成プログラムにのっとり強化育成を進めていく。トランポリン競技では、練習環境の整備と競技開始時期の若年化を図るとともに、選手登録者の増大を目指す。

【成年選手】

えひめ国体を通して、県内施設における競技環境は少しずつ改善されてきている。体操競技においては、それらのえひめ国体でのレガシーを生かし、今以上に練習体制・組織体制を整えていくことで、本県から日本代表選手を輩出する心意気をもって、更なる強化を進めていきたい。

◇指導者の養成・確保

大学で競技を学んだ人材が、県内で活躍できるような環境を整えていく必要がある。その上で、指導員資格の取得や審判員の養成を積極的に進め、それらの資質向上のための研修・講習を継続して開催していきたい。また、日本体操協会主催の大会に出場することを通して、他県の情報収集や県内での課題の把握、改善に努めたい。

No.10 一般財団法人 愛媛県バスケットボール協会の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

優れた素質と将来性を持つ選手を大きく育てるための環境とともに、指導者の研鑽の場として、JBAが取り組む育成センター（Development Center = 略称 DC）の活動を生かす。U12DC, U14DC, U16DC で連携を図り、選手・チームのニーズに応じた指導を通して、育成・強化につなげる。

【成年選手】

現在母体チームを中心とした選抜チームを編成し、継続的な強化を進め成果を上げている。国体のU16 導入により、U17・U18 も含めた活動が求められる。そこで、“小・中・高の一環指導システム”の構築により将来的な育成・強化を図るとともに、ふるさと選手の活用など積極的な情報収集により選手補強を進める。

◇指導者の養成・確保

JBA の制度に基づき、「様々なコンテクストの中で、選手やチーム、そして、自身の潜在能力を最大限に発揮させることができる力を持ったコーチの養成」を実現する。そのために、養成講習会や研修会によりコーチの能力を一定保証し、選手を含め安心・安全に学び続ける環境を構築することで、普及・育成・強化活動を推進する。

No.11 愛媛県レスリング協会の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

ジュニア選手、少年選手ともに県内強化合宿、県外遠征を計画的に繰り返し実施することによって競技力向上を図ります。また、ジュニアから少年、成年選手への移行をスムーズに行うために中学、高校、大学生合同の県内強化練習も積極的に行い、継続して競技を行える環境整備と優秀な選手の発掘・育成を目指します。

【成年選手】

ふるさと選手の大学生や社会人選手を主体とした強化を図ります。大学生は、各所属大学との連携を密にし、選手の強化状況を常に把握するとともに、各所属と協力をして強化を継続して行います。社会人選手は、練習環境を整え、仕事と競技の両立を実践できるようサポートし競技力の向上に努めます。

◇指導者の養成・確保

東・中・南予ともに中学、高校と教員志望の選手を指導者として定着させます。また、学校現場に限らず、ジュニア指導者との連携を密に図り、国体監督、コーチの資格取得など積極的に取り組ませるとともに、競技引退後に後進の育成のためコーチングの意識を高く持たせます。

No.12 愛媛県セーリング連盟の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

競技を普及していく目標として、ジュニア選手については、毎年10名程度の入会、少年選手については、新居浜東高校において毎年10名程度の入部を目指したい。また、ジュニアアスリート発掘事業を活用したり、松山、新居浜、大三島の3つのジュニアクラブにおいて体験教室を開催したりすることを通して、競技の裾野を広げていきたい。

【成年選手】

県連盟ホームページに国体選手募集の掲載をしたり、ふるさと選手に対して本県の情報を提供したりすることを通して、国体にフルエントリーすることを目標としたい。さらには、県内練習や県外遠征を積極的に実施したり、技術力向上のためのアドバイザーコーチ事業を効果的に活用したりすることで、国体において入賞種目を増やしたい。

◇指導者の養成・確保

指導者養成に向けて、2019年度には指導者資格であるコーチⅢの取得のため2名受講することを予定しており、今後も指導者資格を取得できるような環境を整えていきたい。また、愛媛県スポーツ協会が開催する指導者講習会への意欲的な参加を促し、指導者の意識の向上を図っていきたい。

No.13 愛媛県ウエイトリフティング協会の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

「えひめ愛顔のジュニアアスリート発掘事業」や協会独自で活動を行い、優れた才能を持つ小、中学生を発掘、育成することで、競技人口の拡大と競技力の向上を目指します。また、ジュニア教室で充実した練習を行うことにより正しい基本技術を身に付け、その基本を高校で発展させて、各種全国大会での入賞を目指します。

【成年選手】

愛媛から世界で活躍する選手を目指すという理念の下、高校で活躍した選手が強豪大学へ進学し、恵まれた環境で強化を行い、ふるさと選手として活躍することや、卒業後は地元企業に就職し、練習環境を整え、国体で活躍することを目指します。

◇指導者の養成・確保

中学校や高校生で専門的な指導ができる教員の確保を目指します。また、社会人選手が引退後、指導者として活躍できる環境を作るために地元企業等とも連携を取り、指導者の確保に努力します。また、県内指導者の指導力向上のために研修会等にも積極的に参加させ、また、指導力のある指導者を本県に招へいし、競技力向上に努めます。

No.14 愛媛県ハンドボール協会の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

小学生では3チーム→5チーム以上、中学生では4チーム→6チーム以上のチームの増加を目指したい。中学校の部活動とクラブチーム活動の連携を系統化したシステムを構築し、定期的な合同練習で育成、強化を進めていきたい。また、練習会、大会を通して多くの人に関わってもらい、競技力の向上を愛媛県全体として図っていく。

【成年選手】

男子は国体5位入賞を目標とし、EHCを軸に、高校生や大学生の有望選手を発掘・育成しながら、JOTや日本選手権に出場して強化を図るとともに、全国大会で得た戦術分析などの情報を県内各団体に提供したい。女子は、県内の社会人層が薄いことが課題であり、大学生、ふるさと選手を中心として、合同練習会で強化を図っていきたい。

◇指導者の養成・確保

県協会の主催する指導者講習会の充実はもちろん、市や単独チームで行っている講習会の案内を拡大し、幅広い参加を促したい。また、定期練習、強化講習会等の運営を通じてスタッフを確保し、その中から技術面だけでなく、体力面、栄養面、メンタル面など選手の成長を多方面から指導できるように、指導者の資質の向上も目指す。

No.15 愛媛県自転車競技連盟の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

高校自転車競技部 3校を拠点として発掘・育成・強化を行う。本連盟ジュニアクラブやジュニアアスリート発掘事業等と連携して、他競技からの転向も含めた積極的な選手の勧誘、選手の確保を行うことで競技の普及に努める。県内強化練習や合宿の機会を増やし、競技力向上とともに、選手の本県チームに対する意識を向上させる。

【成年選手】

ジュニア選手に対して、大学進学等で競技を継続する進路選択を積極的に勧めることで、レベルの高い成年選手の育成強化に努める。県内在住選手やふるさと登録選手に対して、強化練習や合宿の機会を増やし、競技力向上とともに、選手の本県チームに対する意識を向上させる。

◇指導者の養成・確保

えひめ国体を経て、少年男子選手への指導体制は充実してきた。しかし、ジュニア、成年選手、また女子選手に対しての指導者は依然不足していることが課題である。連盟スタッフの分担を再編成し、より効率的な運営を目指す。また、成年選手に対して、引退後に指導者として競技に積極的に関わることを勧め、さらなる指導者の確保を行う。

No.16 愛媛県ソフトテニス連盟の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

県下全域でジュニアのクラブが存在し、中学校でも多くの学校に部活動があり、競技の裾野は広い。ただ、高校になると競技人口が1/4になることから、継続して競技を行う環境を整えていくことが課題である。また、中学校のトップ選手が、隣県の私学に入学する傾向も強く、県内の高校間で切磋琢磨して競技力の底上げに努めたい。

【成年選手】

愛媛県においては、企業が全面的に支援する実業団チームがない一方、松山大学や松山東雲女子大学では競技が熱心に行われ、中四国地区の大会でも上位の成績を収めている。また、県外の大学や実業団チームで活躍している選手もいることから、ふるさと制度を活用して、県内選手・県外選手が高めあいながら、競技力の向上を図りたい。

◇指導者の養成・確保

国体で、シングルスが導入されるなど、個人の技術や体力が如実に成績に反映されるシングルの強化が大きな課題であり、強化に向けてシングルスを的確に教える指導者を養成することも重要である。シングルの経験が豊富な指導者をアドバイザーに委嘱するなどして、選手だけでなく指導者の育成も行ってまいりたい。

No.17 愛媛県卓球協会の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

卓球競技は近年低年齢化が一層進んでいることから、講習会や体験会を通して競技の普及とともに将来性豊かな選手を発掘する。さらに、中高の部活動に頼った育成・強化から、民間クラブ等と連携を深めながら競技団体を中心とした県単位のハイレベルな育成・強化の機会を大幅に増やし、愛媛から全国・世界で活躍できる選手の育成に努める。

【成年選手】

えひめ国体を機に生まれた全国レベルの実業団チームを軸に、これまで以上に内容を重視した合宿や遠征等を重ねて効果的に強化を図りつつ、国体や全国大会・実業団リーグ等で強化の成果を最大限発揮できる技術・体力・精神力を高めるための対策を講じていくほか、県内外から全国で活躍できる優秀な選手を継続的に獲得する。

◇指導者の養成・確保

強豪都府県と比べ最も劣っているのが、優秀な指導者や強豪校・強豪チームが大幅に足りないことであり、結果的に将来性のある小中学生が多く流出している。国体を機に愛媛に来た選手・指導者を永続的に引き留めるとともに、複数回の指導者講習会等を通しての指導者の養成や、県内の企業・団体や学校が実績のある指導者を確保するよう努める。

No.18 愛媛県軟式野球連盟の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

県内の軟式野球連盟、中学校体育連盟、高校野球連盟、大学野球連盟が連携して交流するフェスティバルや、社会人やプロ野球が主催する野球教室などを通して競技人口の確保と競技力向上を図る。

【成年選手】

目標は四国ブロック大会での常勝及び全国大会で5位入賞とする。2019年からは、基本的に単独チームを選定し、県内選考大会を行う中で、指定単独チームの弱点を補うため補強選手を入れ強化する。また、全国強豪チームとの強化試合を計画的に行う。

◇指導者の養成・確保

現在、軟式野球競技成年男子の指導者・監督となれる有資格者が県内で4名しかいない状況を改善するため、連盟として県下各支部に対し強力に有資格所得の推進について説明依頼し、各チームの代表者・監督に周知徹底を図り、有資格者の増員を目指す。3年間で二桁の有資格者を目標とする。

No.19 愛媛県相撲連盟の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

これまでターゲットエイジとして強化してきた選手たちが中心となり、和歌山国体から福井国体まで4年連続で入賞を果たした。今後も中学生から高校生までの一貫した強化を継続し、競技力向上を図る。

【成年選手】

社会人の国体主力選手と愛媛県出身の大学生選手のレベルがともに高く、ふるさと選手を交えた強化を図る。また、普段からの基礎体力の向上を図るとともに怪我をしない体づくりに取り組み、県外遠征を基に経験実績を積み重ね強化を進める。

◇指導者の養成・確保

役員の若手指導者や社会人選手の中で指導能力が高い人材を競技力向上対策事業で発掘し、指導者の養成を推進するとともに、公認指導者の拡充を図り確保に努める。また、大学生には教職の資格取得を勧めるなど現場指導の人員確保に繋がるよう県やスポーツ協会と連携を図る。

No.20 愛媛県馬術連盟の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

重点的にジュニア・少年の育成、及び競技力の向上に取り組むことで、本県の競技力の底上げを目指す。北宇和高校、愛媛大学、松山大学、各乗馬クラブで、体験乗馬等を実施することで、乗馬に触れ合う機会を提供し、次世代を担う小・中学生を発掘する。また、こうしたジュニア・少年選手を対象に、講習会・競技会等への参加を集中的に支援する。

【成年選手】

成年選手の増加を目指し、ジュニア層に大学等での競技継続を促し、活躍の場を拡げさせる。また、競技会等へ積極的に参加させることで、選手の充実、競技力の強化を図る。さらに、県・関係団体等と緊密に連携し、県内での就職をサポートするとともに、本県出身の成年選手を「ふるさと選手」として活用して、本県の競技力の向上に繋げる。

◇指導者の養成・確保

県・関係団体等と連携し、職場の協力・支援を得ながら、日スポ協や県スポ協、日馬連等が開催する各種の講習会、研修会等への積極的な参加を推進する。また、指導者を目指す選手に対して、指導者資格や審判員資格等の習得をサポートする。

No.21 愛媛県フェンシング協会の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

体験教室やジュニアアスリート発掘事業等を通じて、競技の普及や有力選手発掘を進める。また、県内強化練習及び中央団体育成事業等を継続実施するとともに、県内大会や他府県を交えた合同練習会を開催し、強化育成を図る。

【成年選手】

県内選手及びふるさと選手の強化練習及び大会参加等に対してサポートを行う。また、スポーツ専門員制度を通じて有力候補選手の獲得を目指す。

◇指導者の養成・確保

優秀な指導者を育成するため、中央団体との協力関係を深めながら、県内指導者及び成年選手に対して講習会等を実施する。また、スポーツ専門員制度の活用及び県内関係機関との連携により、優秀な指導者の確保（就職先の確保）に努める。

No.22 一般財団法人 愛媛県柔道協会の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

ジュニアアスリート発掘事業等に積極的に参加し、小・中学生を対象に強化選手を指定して強化練習を行う等、次世代を担う選手の発掘・育成を強力に推進する。また、少年選手については、チームの総合力向上を目指して、県内外における強化合宿・練習会を計画的に実施することにより、全国に通用する選手を育成する。

【成年選手】

成年選手について、県外で活躍している選手が多いことから、ふるさと選手として指定し、県外での強化合宿等に県内選手とともに積極的に参加させることで、チーム力の向上を図る。また、県内においてもふるさと選手との合同強化練習会等を計画的に実施するだけでなく、更に先を見据えて、成年でも活躍できる少年選手の育成を図る。

◇指導者の養成・確保

指導者の育成について、小・中・高校及び成年の各カテゴリーにおける指導者に資格取得を推奨し、指導体制の拡充を図る。また、指導者資質向上を目的とした各種研修会へ積極的に参加することで、指導者一人一人のスキルアップに努める。特に若手指導者については、次世代において県内における中核的な指導者となるよう育成を進める。

No.23 愛媛県ソフトボール協会の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

トップチームによる技術指導を広域的かつ計画的に行う。シーズンオフを中心にクリニック等を開催しており、今後は年間計画を策定し、定期的に技術指導を受けられる態勢を構築する。また、クリニック等は、指導者自身の指導力向上にも繋がるため、継続する。

【成年選手】

県内出身のジュニア有力選手について、他県に奪取されないよう就学と就職の動向を常に把握するとともに、県外出身有力選手の獲得に向け、情報収集に努める。また、県内競技者の競技力向上に繋がり、かつ国内外のトップチーム誘致を可能とする施設を建設する等、施設面の充実を図る取組みを各種団体に対して要請していく。

◇指導者の養成・確保

特に若手指導者に対する取組みとして、資格取得推進に向けた啓蒙活動を強化する。トップコーチ等を招へいし、講演会の開催や具体的な技術指導を受けられる機会を設ける等、指導者の資質向上に繋がる取組みを行う。また、指導者同士の交流を図る場を積極的に設け、情報交換可能な組織風土づくりに努める。

No.24 愛媛県バドミントン協会の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

少年については、課題であるダブルスにおけるパワー・スピード・テクニックの強化・向上に取り組む。日常的な大学生・社会人との合同練習会や、実力の高い実業団選手との練習の機会を設けて強化する。また、中学生の強化選手と高校生の合同練習会も積極的に行い底上げをする。

【成年選手】

県内トップ選手については、個人及び愛媛県全世代のレベルアップを行うため、ジュニアから継続した強化を行い、成年への連続性のある強化を図る。その一環として、全世代合同の強化練習を継続する。また、国体選手については、県外遠征やトップチーム招へいによりレベルアップを図り、国体入賞の継続をめざす。

◇指導者の養成・確保

トップ選手に対しては、各種別の国体監督を中心に互いの指導方法や選手情報を共有しながら全種別の競技力および指導力の向上を図る。また、県内の指導者の養成と確保については、日本バドミントン協会の指導者養成事業も活用しながら進めていく。

No.25 愛媛県弓道連盟の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

本県では、高校の部活動で弓道を始める生徒がほとんどである。普段の練習では、主に部活動顧問が指導している。このことから、ジュニア選手の発掘・育成・強化には部活動顧問の指導力を向上させることが必要である。そのために高体連と協力して練習会や遠征を計画し、顧問の指導力向上を図る。目標は、遠的・近的競技ともに4位入賞以上である。

【成年選手】

岩手・えひめ国体で成績を残せた強化方法を国体レガシーとして生かしながら、更なるレベルアップを図るため、改良を加える。また、オフシーズンにも強化練習を実施し、シーズン開始に向けた体力、的中の維持を図っていく。福井国体では四国ブロック予選敗退と成績差が極端であるので、それを解消して毎年確実に入賞し続けることが、目標である。

◇指導者の養成・確保

部活の指導者で弓道の理解度に格差があるため、部活指導者が中央団体の講習会に多数参加することで、指導力の向上を図る。退職者（部活指導OB）と連携し、指導方法を効率的に伝授することで指導力の向上を図る。県全体の競技力の底上げのため、中堅レベルの指導者に、計画的に講習会への参加を促し、更なる指導力のレベルアップを図る。

No.26 愛媛県ライフル射撃協会の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

2019年度：部活動とともに、ジュニアアスリートやネクストエイジ事業による選手の発掘・育成・強化と、クラブチームの設立を目指す。2020年度：クラブチームによる選手育成と県の事業による選手の発掘・育成・強化を運動させた強化策を推進・継続。2021～23年度：クラブチームと県とのリレーショナルな競技力向上事業により、世界規格の選手を育成。

【成年選手】

ライフル・ピストル種目は、現在の選手層が高齢化していることから、四国ブロック大会のフルエントリーが可能な選手層を確保するため、高校の部活動からの競技継続者の増加に努めるとともに、警察からも有望な選手を発掘する。CP種目も新人の発掘に努め、複数による競争により競技力向上を図る。

◇指導者の養成・確保

ライフル・ピストル種目ともに層が薄いため、外部コーチの継続的な招聘が必要。CPは、国際大会経験者や五輪及び警察の強化指定選手に対するコーチングスキルの向上を図る。
※選手強化の根本的解決方法として、常設の総合射撃場の新設が必須。

No.27 愛媛県剣道連盟の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

ジュニア世代の有望な選手の発掘及び育成を行うため、小学5年生から中学生までの強化錬成会を定期的に実践し、全体のレベルアップを図るとともに「チーム愛媛」の意識づけをします。少年選手は、各校の有力選手を選出し、県内強化練習や県外遠征を実践し、常に国体での入賞を目標とします。

【成年選手】

成年男子は、愛媛県警の選手を中心に強化を図り、県内の強化練習会で合同稽古を重ねることで県警以外の有力選手の発掘や強化も図ります。また、成年女子は、選手層が薄くなる中堅・大将選手の競技力が国体の勝敗に直結するため、定期的に「女子講習会」を開催し、競技力の維持、向上に努めます。

◇指導者の養成・確保

全国的な研修会に多くの指導者を派遣し、県内指導者の指導力向上に努めます。特に、各大会で活躍した選手が、指導者に転向するときには手厚くサポートを行い、指導者としてのスタートをスムーズに行わせるよう配慮します。また、指導者同士が切磋琢磨し、共に指導力向上ができる雰囲気づくりに連盟として尽力します。

No.28 愛媛県ラグビーフットボール協会の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

ジュニアは、年間を通じて育成練習会(U14、U13)、強化練習会(U15)を行い、全国大会出場を目指します。少年は年代別(U17、U16)を強化し、U18は新人戦優勝校を中心に指導スタッフや選手を選考の上、愛媛選抜を編成し、チームとしての練度を上げることによって安定的に国体へ出場し、上位入賞することを目指します。

【成年選手】

成年男子、女子ともにえひめ国体の時からの方針を継続し、県内選手を中心としたチーム作りを行います。今後は、次世代の選手へと世代交代を行っていく必要があります。そのために、全国トップレベルの大会へ積極的に参加し、自分たちでチームを運営し成熟したクラブチームとなることを目指します。目標は国体で優勝することです。

◇指導者の養成・確保

指導者の高齢化、教職員以外の指導者の育成など、指導者に関する課題は山積していますが、具体的な解決策は見いだせていないのが現状です。まずは、問題を精査し、協会員と共有するところから始め、必ず打開策はあると信じ、協会全体が一枚岩になり指導者の養成、確保に取り組みます。

No.29 愛媛県山岳連盟の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

国体の継続的な入賞と日本代表輩出を目標に、トップコーチによる指導や全国大会等への派遣を行う。また、女性の指導者を招へいして女子に特化した指導を行い、基礎的な競技力向上と継続性を確保する。競技人口の増加に向け、県下全域で体験教室や大会を定期的に開催し、競技の普及と選手の発掘を図る。

【成年選手】

男子については、トップコーチによる指導や全国大会等への派遣を行いながら、スポーツ専門員と連携して国体の継続的な入賞と日本代表を目標とする。女子については、国体入賞を目指し、トップコーチによる指導や全国大会等への派遣を行う。連盟主催の大会（コンペ）を積極的に開催して、新たな競技者の発掘に努める。

◇指導者の養成・確保

指導者の確保と裾野を広げるため、スポーツ指導員やルートセッター、審判員などの各種資格の取得を積極的に進め、資質向上のための講習会や資格取得及び更新のための講習会を県内で開催し、受講しやすい環境を整える。また、レベルアップを目指す意欲的な指導者には、県外派遣への一部補助を行うなどの支援に努める。

No.30 愛媛県カヌー協会の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

地域クラブと各学校・県協会が連携し、競技人口の拡大と各カテゴリーでの育成・強化に力を入れます。特にスプリント種目では強化合宿・遠征等でスキルアップを目指し、全小・全中・インターハイなどの主要大会で上位入賞を目指します。また、スラローム・ワイルドウォーター種目も体験会を行うなど、積極的にジュニア競技者の確保・育成を行います。

【成年選手】

スプリント・スラローム・ワイルドウォーターの各カヌー種目の競技人口の拡大に努めるとともに、本県で育成・強化した選手の進学先の確保と卒業後の競技継続環境の整備及び競技力の維持・向上に取り組み、国民体育大会をはじめとする各種大会での活躍とナショナルチーム入りを目的とした、チーム愛媛によるサポート体制の確立を図ります。

◇指導者の養成・確保

えひめ国体で監督・コーチ等を努め、貴重な経験を積んだ指導者が得たノウハウの次世代への継承と一層の資質向上を目指し、アドバイザーコーチ等と連携した指導者講習会を実施するとともに、選手が指導者として活躍することができる環境作りと世代間で途切れることのない指導体制の確立に取り組み、「常勝愛媛」の基礎づくりを目指します。

No.31 愛媛県アーチェリー協会の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

積極的に全ア連主催大会への参加や県外遠征を通じて、ハイレベルな選手との交流を進めながら入賞を目指す。幅広く体験教室を実施し、競技人口の拡大、有望選手の確保を図る。小中学生は近い距離で、シューティング技術の基礎・基本を身に付けさせる。また、無理のない強さの弓を徐々に強くして、安定した試合運びができる体力を養う。

【成年選手】

強化した選手の強豪大学への進学を積極的に進める。高校顧問と大学監督との交流を進め、成年選手の強化を図る。県・関係諸団体との連携の下、大学生選手の県内への就職を勧め、本県選手として継続して活躍できる道筋を構築する。本県出身の学生・社会人選手を全ア連主催大会に参加させ、入賞及びナショナルチーム入りをを目指す。

◇指導者の養成・確保

指導者不足解消のため、高校・大学部活での経験者等の活用への道筋をつける。アドバイザー・トップコーチ事業への指導者の参加を勧め、JISSで行われるナショナルチームの合宿、全ア連が主催する全国指導者研修会や大会への参加・帯同を通して、指導技術の向上だけでなく、他県指導者との交流を進め指導技術のレベルアップを図る。

No.32 愛媛県空手道連盟の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

強化選手選考を実施し、強化選手を対象とした強化事業を立案する。アドバイザー、トップコーチ事業等のハイレベルな強化事業の定期的な開催、並びに強豪県や四国内での連携強化を図り、練習・試合を積極的に実施する。高いレベルの環境で自ら考えさせることで選手個々のレベルUPを図り、全国大会での入賞者を男女各2名以上輩出する。

【成年選手】

アドバイザー、トップコーチ事業等のハイレベルな強化事業、強豪県等との練習・試合を積極的に実施する。県、関係団体等と緊密に連携し、大学進学・就職後に競技継続できる環境作りを行い、選手強化・確保に努める。年1名のナショナルチーム選手の輩出を目標として、国際大会や全国大会の入賞者を輩出することを目指す。

◇指導者の養成・確保

アドバイザー、トップコーチ事業への指導者参加数を現在の2倍とすることで指導技術の向上を図る。若手指導者の資格取得への啓蒙活動を積極的に行いながら、県内現役トップ選手をジュニアコーチスタッフに兼任させ、早期に指導者としての基礎を確立させることで、選手に近い世代の指導者がコーチスタッフの半数以上となることを目指す。

No.33 愛媛県銃剣道連盟の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

2018年度から開始したネクストエイジ育成事業（セレクト12事業）の体験教室をきっかけに、人材の「発掘～育成～強化」を行い、選手の発掘・定着を図る。また、定期的な練習会を実施して、ジュニアの選手の確保と強化に努める。えひめ国体で優勝した実績があるので、今後も全国大会規模において上位入賞を目指す。

【成年選手】

えひめ国体が終了し、若手選手の育成に努めている。現在の選手平均年齢は27歳であり、他県に比べると若い世代である。次回の国体は2020年の鹿児島国体で、2022年栃木国体から5年連続国体開催となるので、現在の選手が最も活躍できる年齢であることから、国体での入賞を目指す。さらに、県外等において優秀な選手獲得にも努める。

◇指導者の養成・確保

少年において指導者が不足しているため、引き続いて競技専属アドバイザーコーチを利用して、選手の育成及び指導者の育成を実施する。さらに、各種研修会等に積極的に参加し、指導能力の向上に努める。

No.34 愛媛県クレー射撃協会の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【成年選手】

ベテラン勢・強化対象選手については、アドバイザーコーチ事業等を利用し、さらなるスキルアップを図り、スキートおよびトラップともに国体入賞を目指す。一般会員については、強化対象選手等と共に、アドバイザーコーチ事業等に積極的に参加を促し、底上げを図る。また、若手・新人の発掘を行い、選手層の若返りを進める。

◇指導者の養成・確保

競技の特性上、選手兼指導者として、指導者講習会等に積極的に参加し、スキルアップを図る。

No.35 愛媛県なぎなた連盟の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

ジュニア選手は定期的な練習会を開催し、統一した指導で基本に忠実な正しいなぎなたを習得させ、JOC全国中学生なぎなた大会での上位入賞を目指します。また、少年選手は、県内強化練習、県外遠征を定期的実施し、競技力向上を図り、国体・インターハイ・選抜大会の3大大会での上位入賞を目指します。

【成年選手】

仕事と競技の両立をおこなうために練習場所を確実に確保し、県内強化練習を行うとともに、県外遠征の回数を増やし、県内だけでは得られない技術の習得や、試合勘などを強化し、国体、都道府県対抗大会、全日本選手権大会など各種大会の試合競技での上位入賞を目指します。

◇指導者の養成・確保

指導力向上のための実践的な講習会を定期的に行うとともに、県外で開催される指導者研修会への参加を積極的に募り、派遣します。また、審判資格取得のための講習会を実施し、自信をもって試験に臨み審判資格を確実に取得するためのサポートをします。

No.36 愛媛県ボウリング連盟の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

えひめ愛顔のジュニアアスリート発掘事業を活用し、有望なジュニアを確保しつつ、連盟主催による週1回程度の強化練習会を実施する。ある程度の水準に達したら、強化指導会への参入を進め、本格的な強化を行い、国体出場の関門である四国ブロック予選の突破を図る。将来的には成年で愛媛を牽引する選手を育成することを目標とする。

【成年選手】

ジュニア・少年として強化してきた選手を中心に、既存の選手の中で有望な選手を強化指導会の中で強化育成する。ボウリングには毎回異なるレーンコンディションの攻略という最重要ポイントが有り、できる限りいろいろなセンターで経験を積むことが重要となるため、県外大会等へも積極的に強化選手を派遣し、選手個々のスキルアップを図る。

◇指導者の養成・確保

えひめ国体を目標としてきたため、指導員の高齢化が喫緊の課題であり、若手の中でやる気のある選手・役員をピックアップし、指導員の資格取得を推進する。指導員等選手の指導に当たる者には全日本ボウリング協会主催の研修会等に積極的に派遣し、個々の指導力の向上を図る。

No.37 愛媛県ゴルフ協会の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

初心者にはゴルフの楽しさを体験させるとともに、ルールや技術の向上を図るため、ジュニアゴルフスクールを引き続き開催する。また、低廉な料金でプレー出来るよう、ゴルフ場と連携してジュニアゴルファーサポート制度を継続実施するほか、大会などを通じ、有望なジュニア選手を発掘し、育成・強化に努める。

【成年選手】

成年選手は、これまで全国大会で数々の優秀な成績を残してきたが、その歴史を引き継ぐ、次代を担う若手の育成が課題となっている。そのため、国体選手に対する県内外における強化練習会の開催や練習経費への助成、日本スポーツマスターズ出場選手への大会参加費への助成など、有望選手の育成・支援に努める。

◇指導者の養成・確保

プロを目指している選手には、両親等の影響で幼い時から競技を始め、個別にティーチングプロなどの指導を仰いでいる者も多いが、ゴルフの裾野を拡げ、より活性化していくためには、指導者の育成が重要である。そのため、ジュニア委員会が中心となり、トップアマなどに対し、指導者としての協力を働きかけていく。

No.38 愛媛県スキー連盟の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

アルペンスキーの選手については、比較的馴染のある競技であるため、ある程度選手はいるが減少傾向にある。加盟団体の会員を通じて選手層拡大に努めたい。クロスカントリーについては、小学生の体験会や愛媛県のジュニアアスリート事業などを好機ととらえ、同競技に親しんでもらい、競技者への発掘につなげたい。

【成年選手】

学生から社会人になるタイミングで、競技を辞めてしまう場合が多い。仕事の都合で本格的に競技を続けられない事情、選手を続ける経済負担、家庭の事情など様々であるが、引退ではなく、細々でも競技を継続していただくよう、指導していきたい。

◇指導者の養成・確保

全日本スキー連盟、日本スポーツ協会の各種資格の取得の呼びかけや、愛媛県のフレッシュリーダー研修会への参加、各種大会役員への出役等を通じて、指導者としての意識付け、レベルアップをしていきたい。

No.39 愛媛県スケート連盟の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

選手自身に現在のランキングを認識させ、今後の練習や生活態度等を考えて行動できるよう指導し、年齢に合った強化をする。各年間を通して他チームとの強化練習や合宿を行い競技力の向上を図る。

【成年選手】

ジュニア、少年選手を成年に繋げ引き続き強化する。現選手の継続において、選手数の確保をし、競技会への参加により全国ランキングを確認し、目標決定する。同時に他チームとの合同練習も定期的に行い、技術と体力の向上を図る。

◇指導者の養成・確保

現指導者の継続と選手引退後の指導者への変更を促す。また、講習会の開催や他チームとの合同練習を行い、同時に指導者の勉強会も取り入れることで指導力向上を図る。さらに、複数の指導者によるクラス別の指導および体力面、技術面、道具面など各分野での担当制とし専門的な指導を行っていく。

No.40 愛媛県アイスホッケー連盟の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

体験会等のイベントを積極的に実施して競技の普及をはかることで幼年層の選手獲得数を増やし、ジュニア選手、少年選手への育成を目指す。また、中央競技団体との連携により、自他県開催のクリニックへの積極的な参加を促し、スキルアップを目指す。オフシーズン中の他県への遠征や陸トレ実施等継続的な競技力維持に努める。

【成年選手】

ジュニア選手から成年選手へ一貫した指導体制を確立し、高校まで継続して育ててきた少年選手を成年選手として続けて育成していくことを目指し、対外試合等の機会を増やして経験値をあげることで、更なるレベルアップを図りたい。また、オフシーズン中の他県への遠征や陸トレ実施等継続的な競技力維持に努める。

◇指導者の養成・確保

中央競技団体と連携をはかり補助事業等を活用することで、中央の指導者を本県へ招へいたり、本県指導者を中央の指導者養成会に参加させたりして指導者のスキル向上に努める。また、ジュニア世代から成年世代まで一貫した選手育成、指導者の養成・確保を目指すし、ジュニア選手、少年選手、成年選手の世代間交流を積極的に図りたい。

No.41 愛媛県トライアスロン協会の取組み

◇選手の発掘・育成・強化

【ジュニア選手・少年選手】

実業団の日本食研及び県協会の練習会を継続的に開催しながら、ジュニアアスリート発掘事業で興味を示す生徒や身体的に優れた生徒を練習会に勧誘することでジュニア層の底辺を広げると共に、競技力の向上を図る。

【成年選手】

実業団の日本食研の選手の活躍に期待している現状であるが、現在、男子高校生3名、女子高校生1名、及び女子大学生1名の有望選手が育ってきており、実業団との合同練習等を定期的で開催することで選手のレベルアップを図りたい。

◇指導者の養成・確保

全国レベルで戦った経験を有する日本食研の優秀なコーチの指導には説得力があることで、選手も信頼を置いている。今後、日本選手権参加者や国体参加者にも自身の経験が話せ、育成熱心な指導者になってもらえるよう、県協会として取り組んでいきたい。

3 おわりに

えひめ国体の開催に向けて約10年あまり、中・長期的な観点から具体的な競技力向上対策に取り組んできましたが、効果のある強化事業を具体的に企画（Plan）し、効果的に実行（Do）するためには、各競技団体との信頼関係を深め、緊密な連携を取りながら、本県における競技力向上対策の取組状況を常に把握・評価（Check）し、基本計画の改善や創造・工夫された強化事業の実践（Action）をサイクルに継続した取組みが不可欠です。

えひめ国体まで本県のアスリートや競技関係者がひたむきに取り組んできた「不断の努力」を貴重な「レガシー」として確実に継承・発展させ、「スポーツで未来を愛顔に」できるよう次世代を担うジュニアアスリートの可能性を伸ばし、世界を目標に高みを目指すトップアスリートを育成・支援できるよう、より一層競技力を向上し、「スポーツ立県えひめ」の実現を本県スポーツ関係者ととともに進め、愛媛に対する誇りや郷土愛、一体感を創ります。